

慶應義塾大学湘南藤沢学会研究助成基金成果報告書

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科医療マネジメント専修
後期博士課程 1年 塩田藍

1. 活動概要

- 1) 活動名称：第 36 回 日本社会精神医学会 参加・発表
- 2) 開催日：2017年3月3日・3月4日
- 3) 会場：大田区産業プラザ

2. 研究背景

統合失調症患者状態像は多様であることが示されており、患者の生活実態と特徴における多様性を明らかにし、より適切な地域でのケア実践に向けた示唆を得る必要がある。患者の多様性に応じた生活実態の把握については類型化による定量化、可視化が有用である。しかしながら先行研究の多くは集団全体の集計や関連要因の把握にとどまっており、類型化は併存疾患や服薬状況等の臨床的な観点においてのみ行われている。そのため本研究では、潜在クラスモデルを用いて地域在住統合失調症患者の生活実態に基づく類型化を行い、各類型の特徴把握を試み、特徴に適した支援の提案を行うことで、患者や家族の地域生活の質向上のため支援策定に有用な一次資料を得ることを試みた。

3. 活動目的

目的は1点目に第36回日本社会精神医学会にて本研究結果を発表することにより聴衆とのディスカッションを行うこと、2点目に他研究者の発表や講演参加により情報を収集すること、以上から今後の研究の発展に向けた示唆を得ることである。

4. 活動の成果

- 1) 本研究についての発表内容の概要

一般演題（口演）にて演題名「潜在クラスモデルによる地域在住統合失調症患者の日常生活実態に基づく支援の類型化」の発表を行った。

【背景】上記に記載。【方法】対象は地域在住統合失調症患者である。関東圏の地域活動支援センター等全 56 施設に無記名自記式質問紙を留め置き対象者の返送により収集した。調査項目は、基本属性、サービス制度利用、内面評価、環境評価である。分析には潜在クラスモデル、特化係数の算出、各クラスの尺度得点に一元配置分散分析と多重比較検定を用いた。自由意思による参加同意を得た者を対象とし個人情報の保護

に留意した。本研究は横浜市立大学医学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】調査票配布数 560 票のうち有効回答 264 名（有効回答率 65.7%）であった。適合度指標により 5 クラスモデルを採用した。クラスの基本属性、内面評価、環境評価における特化係数より「包括的医療福祉支援型」、「グループホーム生活適応支援型」、「社会的役割獲得支援型」、「家族同居社会復帰支援型」、「高齢単身生活支援型」と命名した。地域生活における内面、環境評価は「包括的医療福祉支援型」では他クラスより有意に低く、「社会的役割獲得支援型」は有意に高いことが示された。

【結論】地域在住統合失調症患者の生活実態は基本属性、サービス制度利用、内面評価、環境評価において 5 クラスに類型化され、各類型に応じた支援の重要性が示唆された。

2) 学会における発表および参加を通じた成果

学会に参加する他研究者や現場の方々とのディスカッションにおいては、研究対象者の地域生活でのサービスにおける課題を解決するために有用な研究であり、より現状を反映するべく取り組む必要があるという意見を得た。

また、学会の様々なプログラムに参加することで、社会精神医学の最新の知見や、研究動向についての学びを得た。特にアジア国際シンポジウムでは”Mental Health in Asia”を題としてアジア諸国の精神保健の現状における研究者より、精神疾患患者に対する Stigma (偏見・差別) がもたらす影響が大きいことが共通の課題として発表された。患者個人に対する働きかけのみならず、患者を取り巻く環境に焦点を当て、働きかけることが、今後の重要な視点となることを痛感した。

5. 研究成果の活用

学会発表および参加にて得た知見を、博士論文における対象の地域生活の質向上に資する研究への発展に活用する。なお、本研究の成果は学会誌に投稿を行う。

6. 謝辞

本学会参加にあたり、資金援助をいただいた慶應義塾大学湘南藤沢学会に御礼申し上げます。